UNICEF Teachers' Network 通信

ユニセフ T(ティー)・NET(ネット)通信

2012 WINTER
No.50

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部
〒108-8607　東京都港区高輪 4-6-12　ユニセフハウス　TEL:03-5789-2014　FAX:03-5789-2034
Email: se-jcu@unicef.or.jp　ホームページ http://www.unicef.or.jp
募金口座▶郵便振替：00190-5-31000　（公財）日本ユニセフ協会（送金手数料免除 ※窓口振込のみ）

若者たちの豊かな青少年期のために

「世界子供白書 2011」からの報告

幼い子どもたちの尊い命と健康を守ることは、より良い人生のスタートを切るために不可欠です。しかし、成長した10代の子どもたちの問題は見落とされがちです。子どもたちの成長にあわせて持続的に支援を行い、見守っていくという責任も忘れてはなりません。「世界子供白書2011」では、今後ますます複雑になる国際社会の中で、10代の若者たちが直面する問題や青少年期を支えることの大切さを訴えています。

©UNICEF/NYHQ2009-2183/Ricardo Pires
2009年、デンマークのコペンハーゲンで開催された「子ども気候フォーラム」でまとめあげた「宣言」を掲げる子どもたち

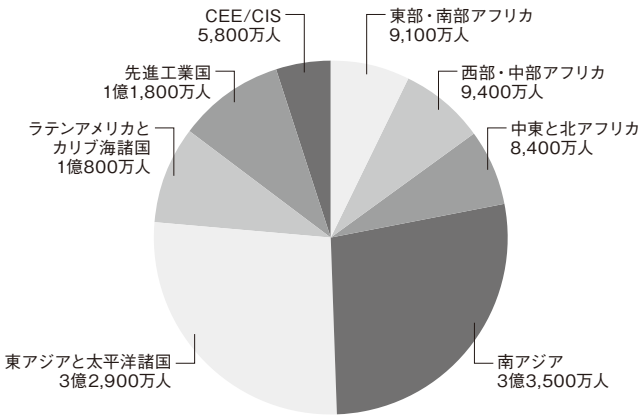
青少年の課題

2011年、5歳未満児の年間死亡数が760万人に減少しました。これは、初等教育就学率の向上、安全な飲料水へのアクセス改善などとともに、幼い子どもたちへの投資が成功したことの証です。しかし、豊かな子ども時代を築くためには、せっかく10年生き延びた命をその後の10年も大切に育み、子どもたちの心身の成長を継続して支えていかなくてはなりません。

早期幼年期（0～4歳）は、脳の成長が著しい時期として知られていますが、早期青少年期（10～14歳）は、特に人としてのアイデンティティが形成される大切な時期です。青少年期になると、自由や機会を得るとともに、この時期に特有の様々な危険にぶつかります。例えば、青少年期（10～19歳）の死亡原因の第一位は傷害で、傷害で命を失う青少年は年間40万人にもおよびます。その原因といわれる都市化は、開発途上国で最も支援が届きにくいサハラ以南のアフリカや南アジアでも急速に進んでいます。そして、これらの地域は青少年の人口比率が最も高い地域でもあります。【グラフ1参照】

子どもたちは自分たちを取り巻く厳しい環境を生き抜こうと

【グラフ 1】地域別の青少年人口（10～19歳）、2009年



出典：United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division, *World Population Prospects: The 2008 Revision*, <www.esa.un.org/unpd/wpp2008/index.htm>、2010 年 10 月にアクセス。「世界子供白書 2011」P.20 掲載

たたかっています。多くの若者たちは精神的な問題を体験します。現在、うつ病は後期青少年期（15〜19歳）が患う病気の最大の原因であり、自殺は15〜35歳の死亡原因のひとつです。推定7万1,000人の青少年が毎年自殺を遂げ、その40倍が自殺を図っているという報告もあります。

©UNICEF/NYHQ2004-1019/Giacomo Pirozzi
ユニセフの支援で実施されたHIV/エイズについてのピア・エデュケーションプログラムに参加する若者たち（グルジア）

社会的経済的格差や男女差別などの不公平な状況は、10代になってますます顕著になる傾向があります。初等教育への就学率はたしかに改善されてきましたが、貧しい子どもたちが、初等教育を終えた後、中等教育へ進学できないことなどもその一つの例です。そして、女の子は、児童婚、家事労働の負担、早い性交渉、妊娠、女性性器切除/カッティング（FGM/C）、HIV/エイズ感染など、健康上の危険にさらされる割合も青少年期に急激に高まります。

社会に欠かせない若者の力

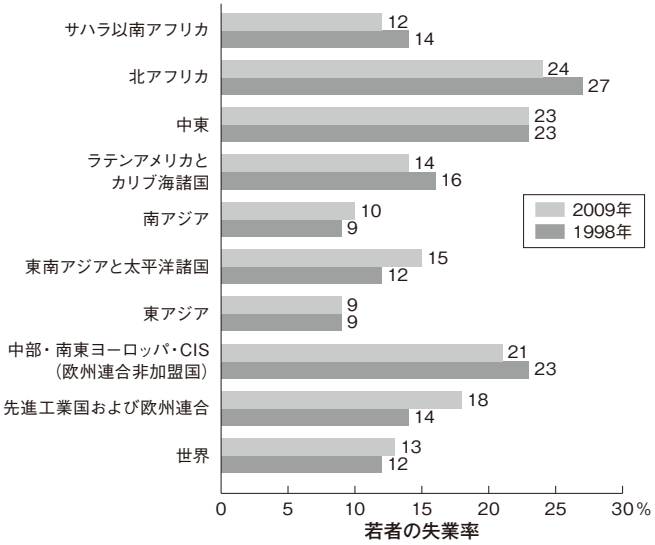
政府や国連をはじめとする各機関は、10代の子どもたちに関するより詳細なデータを収集、分析し、支援に役立てていかなくてはなりません。貧困の悪循環と不公平性の解消のために、教育は何よりも優先されるべきことです。中等教育を受ける女の子は、受けない女の子よりも早くに結婚しない可能性は6倍、妊娠しない可能性は3倍にもなるという結果がその効果を物語っています。

具体的には、ユニセフも政府と協力して取り組んできた、中等教育の義務教育への延長や初等・中等教育の無料化など、すべての子どもたちが等しく教育を受けられるように対策を講じることが望まれます。また、ピア・エデュケーション（同じ年代の子どもたちによる啓発活動）や職業訓練など選択肢を多様化させ、すべての若者たちが教育の恩恵を享受できるよう、教育の公平性にも焦点を当てていかなくてはなりません。また、若者たちが社会と繋がり、積極的に参画していけるようにするため、「子どもの参加」を促進するための政策や制度を作っていくことも必要です。

©UNICEF/NYHQ2010-3082/Giacomo Pirozzi
ユニセフの支援で実施された子どもの権利について学ぶワークショップに参加する子どもたち（ニジェール）

現在、そして今後も気候変動や自然災害の頻発、人口爆発や食糧危機、不安定な経済状況などによる甚大な影響が予想されます。数々の難題が待ち受ける未来へ向けて、若者たちが知恵を出し合って、行動を起こしていくことが求められます。しかし、現在、世界では8,100万人もの若者が職につくことができないでいます。多くの子どもたちが、十分な技能を身につけずに大人になってしまうからです。【グラフ2】が示すように、若者の失業問題は世界的な課題です。国の経済、発展を担うべき若者たちが安定した生活を送り、社会に積極的に関わる一市民となれるように支援していくことが大切です。青少年期は、幼い子どもと同じくらい脆弱であると同時に、大人と同じくらい社会に参加するのにふさわしい世代です。10人の子どものうち9人が暮らす開発途上国で、多くの可能性を秘めた若者たちをより一層支援していかなくてはなりません。

【グラフ２】若者の失業の世界的な傾向



出典：International Labour Organization, *Global Trends in Youth Employment,* ILO, Geneva, 2010 年 , Annex 1, Table A5.
「世界子供白書 2011」P.46 掲載

『世界子供白書2011 青少年期（10代）可能性に満ちた世代』を通して、若者たちがより充実した青少年期を過ごせるように、私たちが取り組むべきことはなにか、ユニセフと一緒に考えてみませんか。

「世界子供白書 2011」のご案内

「世界子供白書 2011」をご希望の方は、
下記までご請求ください。
1 部まで無料、
2 冊目以降は、1 部 280 円と
送料のご負担をお願いいたします。

お問合せは学校事業部へ
TEL: 03-5789-2014　FAX: 03-5789-2034
E-mail: se-jcu@unicef.or.jp